

開拓の先駆者「八王子千人同心」の頭

原半左衛門奉納の仏具発見

【苦小牧】苦小牧市美術博物館は30日、苦小牧や釧路管内白糠町の開拓の先駆者となった東京・八王子の武士集団「八王子千人同心」の頭、原半左衛門が奉納した仏具「鰐口」が釧路市の寺で発見されたと発表した。半左衛門が直接関わる史料が見つかるのは初めてで、同館は千人同心の足跡を知る有力な手がかりになるとみている。

八王子千人同心は、1800年（寛政12年）に入植し、北方警備や土地開発に当たったとされる下級武士集団。当時の史料はわずかで、その足跡や活動内容には未解明な部分が多い。

鰐口は、釧路市の大成寺の副住職が数年前に敷地内で発見した。青銅製の円形で直径約20センチ、厚さ約6センチ。原半左衛門が奉納した仏具で、10日から苦小牧市美術博物館で一展公開される鰐口。

苦小牧の博物館「足跡探る史料」



重さ1300g。ハスの花や半左衛門の名、「白糠鎮守三丁番神」の文字が彫られている。

道徳蔵文化財センター元贈の大沼春彦さんが鑑定し、本々の名があることや、半左衛門が建てた白糠のほくらから複数の奉納物が大成寺に移されたという文脈が残ることから、本物と結論づけた。

博物館学芸員の佐藤麻利さん(31)は「他の文献と照合し、千人同心の詳しい足跡や、派遣した江戸幕府の思惑なども探りたい」と話す。同館は10日から鰐口などを展示する企画展を開く。(木村みなみ)



大成寺 HP

令和2年10月1日（木曜日）の北海道新聞より

「挨拶」

秋涼の候、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今年にはコロナ禍により何事も思うに任せませんが、今できることを探すことでこれまでのが新しい展開を迎えるかもしれません。

近年、お寺の歴史を調べるにあたって常々資料を集めていました。集めるだけでは意味がないので、それをもとに文章にしていっしょに皆様にお配りしたいと思ひ執筆を始めましたが今年に入ってからです。少しずつ筆を進めていきましたが、このコロナ禍で要目粛となったのを機にできるところまで書き進めようと思ひました。

その集めた資料の中に、数年前に境内の金毘羅堂から見つけた一つの「鰐口（わにぐち）」がありました。鰐口はお堂の入り口上部に振り縄とともに吊るされ、振り縄を振り当てることで音を鳴らす仏具です。彫られた年代を調べると享和元年（1801）江戸時代

のものでした。この鰐口を奉納したのは「原半左衛門胤敦（はらはんざえもんたねあつ）」といひ八王子千人同心という武士集団の頭で、北方警備と開拓のために100人を引き連れて江戸から蝦夷地に入植しました。途中、勇払（現苦小牧）に弟の新介と50人を配置し、自身と残り50人は白糠へ入植したのです。

発見しつづ、郷土史家の佐藤有紹先生に鑑定していただいており、本物で歴史的価値のあるものであることは分かっています。当然、お寺の什物として寺史の中で鰐口に触れなければならないと思ひ、改めて調べていると、『沙流郡「波恵村」出土の天和三年銘鰐口について』という論文を見つけました。内容を読むと、これまでも北海道各地で古い鰐口が発見され調査されているので、著者の大沼忠春氏に興味があるかどうか連絡を取りました。大沼氏は早速札幌から調査に来鉦して拓本を取り、発見状況や発見場所の金毘羅堂の由来、これま

で調べた結果等をお伝えしました。

後日、大沼氏の方から連絡がありました。内容は、この秋に胤敦の弟新介が入植した苦小牧の美術博物館で、八王子千人同心入植220年の企画展を開くことが決まっていたそうです。釧路で胤敦の鰐口を鑑定したことを美術博物館の館長に伝えると、是非今回の展覧会で展示したいという事でした。

改めて調査と展示の依頼という事で8月に美術博物館の館長と調査員が来釧して、鰐口を預け、後に10月1日が報道発表の日だと連絡を受けていました。

「原半左工門胤敦奉納鰐口」と名付けられたこの仏具が白糠からどういった経緯で大成寺の金毘羅堂にやってきたのかをこれから調べてみようと思います。

展覧会は10月10日から12月13日まで苦小牧美術博物館で開かれます。期間中に近くをお立ち寄りの際は是非ご覧下さい。

220年の時を超えて
交差する兄弟の想い
企画展
八王子千人同心と
蝦夷地

享和三癸亥年 比叅
八月十七日 原新介平胤暉 敬白

2020年
10/10[土]~12/13[日]

■開館時間 / 9:30~17:00(入館16:30まで)
■休館日 / 月曜日(ただし11月23日(月)祝は開館し、翌24日(火)が休館)
■観覧料 / 一般300(240)円、高大生200(140)円、中学生以下無料
※1円未満は10円以上の取扱い。※券額不足が必ずありますのでお預けください。
※年間観覧券でもご覧いただけます。※お休みの日でも観覧いただけます。
※11月3日(火)は無料観覧日のため、どなたも無料でご覧いただけます。(但し、イベント等は別料金)

●主催 / 苦小牧美術博物館
●後援 / 苦小牧信用金庫、北海道新聞苦小牧支社、株式会社苦小牧産社、株式会社三屋
●協力 / 七瀬町歴史館、道庁中央図書館、八王子市郷土資料館、北海道大学附属図書館、八王子千人同心旧友会、熊鷹山自然院大成寺、門別本町連合町内会稲荷神社維持委員会

Tomakomai City Museum
苦小牧市美術博物館
〒053-0011 北海道苦小牧市末広町3丁目9番7号
TEL.0144-35-2550 FAX.0144-34-0408
http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan
http://www.facebook.com/tomakomai.museum
http://twitter.com/tomakomai_amy

企画展

八王子千人同心と 蝦夷地

八王子千人同心は、蝦夷地の防衛と開拓のために、寛政12(1800)年に武蔵国八王子(現在の東京都八王子市)から蝦夷地へ渡りました。隊長の千人頭原半左衛門とその弟原新介は同心子弟100人を率い、半左衛門は50人を引き連れてシラスカ白糠へ、新介はユワツ勇払に入り、雪崩、閉塞などに従事しましたが、病人や死者が続出したため移住し年目に解散します。

本展は今年で八王子千人同心がユワツにやつとて200年を迎えることから、江戸時代における八王子千人同心の蝦夷地での移住が試みられた第1次幕領期(19世紀初頭)とそこに道南地域へ移住した第2次幕領期(19世紀中期)における千人同心の歴史についても関連資料から取りかえりま。

特に、近年釧路市で発見された「原胤敦奉納罌口」(図版左)は千人同心の蝦夷地での足跡を知ろうとしても貴重な資料であり、本邦初公開となります。





「新田義兵争の地盤(石本)」江戸時代七版刊歴史館蔵

「千人同心頭結城頼隆」個人蔵

「東蝦夷地より道後へ陸地通中絵図(上)」文化6(1809)年 道前市中央図書館蔵

「休明光紀 一」文化4(1807)年 前橋市中央図書館蔵 前橋市指定文化財

関連行事

※新型コロナウイルス感染拡大状況により、延期・中止となる場合があります。

- **展示解説会**
内容: 企画展「八王子千人同心と蝦夷地」の見所を、担当学芸員が解説します。
※展示室への入場はありません。
日時: 10月25日(日) 10:00~10:40、14:00~14:40
11月 8日(日) 10:00~10:40、14:00~14:40
12月13日(日) 10:00~10:40、14:00~14:40
対象: 一般
定員: 25名(先着順)
料金: 無料
申込: 不要 ※直接会場へお集まりください。
- **甲冑ストラップをつくろう**
内容: 甲冑のミニチュアストラップを作る工作教室
講師: 細川正直氏(元苫小牧市科学センター館長)
日時: 11月23日(月・祝) 13:00~15:00
対象: 小学5年生以上
定員: 20名(先着順)
料金: 無料
申込: 10月23日(金)から 電話受付
- **古文書解読講座中級編(全2回)**
内容: 八王子千人同心に関する古文書を読みます。
日時: 12月5日(土)、12月6日(日) 各13:30~15:30
対象: 高校生~一般
定員: 30名(先着順)
持ち物: 筆記用具
料金: 無料
申込: 11月10日(火)から 電話受付

ミュージアムラボ「蚕のまゆから糸を取ってみよう」

内容: 姉妹都市・八王子市が養蚕・織物業でさかん「桑都」であることにちなみ、蚕のまゆから糸を取りだす体験をします。
日時: 11月7日(土) 13:00~15:00
対象: 小学4年生以上(小学3年生以下は保護者同伴)
定員: 20名(先着順)
料金: 無料
申込: 10月6日(火)から 電話受付

同時開催

(企画展示「紙とアート: 吉田傑のダンボールといきもの」) 2020年10月10日(土)~12月13日(日)
(中庭展示 Vol.15 「磯崎道住 世界には塵ひとつない」)

- ◆ 感染症拡散防止のため、開館時間や入場時の受付方法等が変更になる場合があります。ご来館前に最新情報をご確認ください。
- ◆ ご来場の際にはマスクの着用などの感染予防にご協力をお願いします。

Tomakomai City Museum
苫小牧市美術博物館

〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9番7号
TEL 0144-35-2550・FAX 0144-34-0408
http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan
https://www.facebook.com/tomakomaimuseum
https://twitter.com/tomakomai_museum



お盆の送り火法要

今年のお盆は毎年恒例の鉦路仏教界主催の送り火法要が中止となり、各寺院での開催となりました。当山では本堂前に申し込みいただいた各家を書き入れたローソクを並べお盆の終わりを告げる送り火法要を執り行いました。

元町てらこや

昨年 4 月から毎週土曜日に旧明照幼稚園園舎を地域に開放している「元町てらこや」活



動です。今年の夏は恒例の夏祭りや盆踊り、花火大会などがすべて中止となりました。

しかし、少しでも地域の子供たちに夏らしさを感じてもらおうと思いい、町内会と協同していつもは盆踊りの櫓が立つ園庭で、子供花火大会を開きました。園舎では元町青年団の協力でサブライズ肝試しをしました。花火とともにとても楽しんでくれたようです。

おてらおやつクラブ

もうお馴染みとなった「おてらおやつクラブ」です。集めたお供えのおさがりを福祉活動団体にお渡ししておやつに恵まれない子供たちにおすそわけをする活動です。主に両彼岸やお盆にご案内してい

令和二年 お十夜法要

例年であれば 24 日と 25 日の両日にわたり盛大に勤められる大成寺十夜法要です。しかしご承知の通りコロナの影響で、規模を縮小して勤修することとなりました。



お待ち受けの法要である前日の速夜法要を中止して 25 日 1 時から正当法要のみをお勤めいたします。

4 月の御忌云(ぎよきえ)は浄土宗を開かれた法然上人の忌日法要であり、10 月の十夜会(じゅうやえ)は阿弥陀仏が悟りを開き極楽浄土を構えてくださったことに對する報恩法要です。救い主の阿弥陀仏とその道を説いた法然上人のための両法要は、浄土宗寺院であれば必ず執り行う必要があります。また、お檀家さま皆様もそのおかげで亡き方が救われ、自らも往かせてもらえることのありがたみを知ることができ、日ごろの念仏生活の基となるのです。

ますが、常時お寺の玄関にて募金もお願いしていました。お盆を終えて募金箱に集まった浄財を本部に寄付いたしました。金額は 9862 円でした。これからも当活動を続けてまいりますので、皆さまお檀家さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

年に二度開かれる浄土宗の二大法要ですが、道内寺院の御住職さまの参集もかなわぬ本年です。規模を縮小してご案内の通りお勤めいたします。本年中にお身内をなくされた方はどなたか必ず参列下さいませ。

